

コミュニケーションツールを統合したブラウザ登場

MSNエクスプローラで.NETサービスを先取りする

text : 山田祥平

ポータルサイトMSNを
MSNエクスプローラで操る

MSNエクスプローラは、マイクロソフトのポータルサイト“MSN”のサービスを統合的に利用するための専用ブラウザだ。ウィンドウズXPに標準添付されているほか、ダウンロードサイト **NJump** でも配布されている。

インターネットに接続されたウィンドウズPCでMSNエクスプローラを動かせば、ニュース、コミュニティー、電子メール、インスタントメッセージングといった各種のサービスがより簡単な操作で利用できるのだ。

サービスの利用に際して専用のソフトウェアを提供する手法は、AOLなども有効に活用している。ただ、MSNエクスプローラの場合、基本的にMSNの機能はすべて

インターネットエクスプローラなど、ほかの方法でも利用できることを前提にしながらも専用ブラウザを使って、より豊かなユーザー体験を提供しようとしている点が特長だ。また、インターネットへの接続などはOSや他社ISPの利用を前提とし、あくまでもPC内のサービスナビゲーターの役割に徹している。

インストール後、MSNエクスプローラを起動すると、許諾条件への同意などの手順のあと、MSNを利用するにあたってのアカウントを指定する。ここでは、Hotmailのメールアドレスが必要で、これがない場合は新たにその場でHotmailのアドレスを取得できるようになっている。これによって、ユーザーは自動的にMSNサービスの利用に必要なPassportのアカウントを取得することになる。各種サービスの利用には、最

主な機能とその将来



こう変わる!!

ポータルサイトから
オンラインデスクトップへ

MSNエクスプローラは最大9人のユーザーで共有できる。ユーザーの追加は、すでに利用中のアカウント情報の追加と新規にアカウントを発行して追加の2つの方法がある。

メインウィンドウ左側のマイメニューには、ユーザーがカスタマイズして選んだ機能が表示される。またマイメニューの下にはメディアプレイヤーも組み込まれているので、映像や音楽の再生も簡単にできる。

現時点ではポータルサイトであるが、将来デスクトップ環境がインターネット上に保存できるようになる可能性も見えてくる。



上の画面はログイン画面で、複数のユーザーが表示されている。左の画面のように、マイメニューにはユーザープロフィールに合わせた地域情報やMSNからの情報も表示される。

最終的にユーザー認証のためのPassportが必要になるため、この時点でそのアカウントを取得させておこうというわけだ。

マルチユーザーアカウントで個人ごとの環境を作る

起動後、表示されるログオン画面はウィンドウズXPの「ようこそ画面」にも似たもので、ユーザーごとの写真とアカウント名が表示され、パスワードを入れてサインインする。想像に難くないように、このログオン画面はマルチユーザーをサポートし、ユーザーごとの環境を個別に保存できるようになっている(P266画面右)

ソフトウェアそのものはインターネットエクスプローラをベースにしたものだが、タイトルバーの下には、ホーム、メール、お気に入り、メッセンジャー、ニュース、ショッピング、マネー、チャットという大きなボタンが並んでいる。また、アドレスバーはあまり目立たず、ユーザーにURLを入力させるような操作は、あまり推奨していないように感じられる(P266画面左)。

また、ウィンドウズXP標準のインスタントメッセージングソフトであるウィンドウズメッセンジャーを、ツールバーの「メッセンジャー」ボタンをクリックしてを起動した場合も、設定などの情報はウェブで表示される。つまり、MSNエクスプローラの基本的な考

え方は、シングルウィンドウでさまざまなサービスを利用できるようにするという観点から成り立っているようだ。

その向こう側に見える Freestyle ユーザーインターフェイス

マイクロソフトは2002年の年明けに、ラスベガスで開催されたCESにおいて、ウィンドウズXPの拡張GUIとして、コードネーム「Freestyle」と呼ばれるテクノロジーを

MSNエクスプローラの主な機能

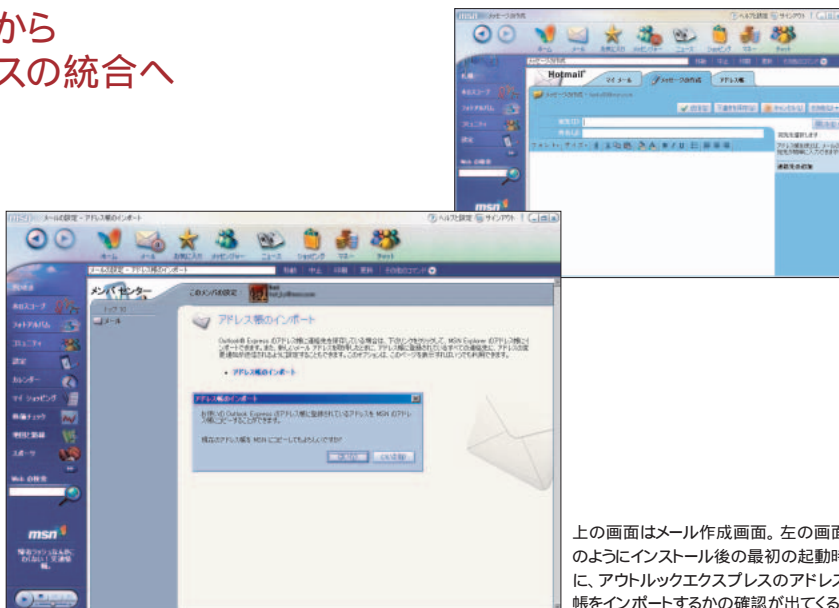
| | |
|-----------|--|
| メール | Hotmailがベースになる。アウトLOOKエクスプレスのアドレス帳をインポートして使える。 |
| お気に入り | インターネットエクスプローラのお気に入りを取り込んでオンライン化して、どこでも使える。 |
| メッセンジャー | MSNエクスプローラ上でMSNメッセンジャーを起動し操作できる。 |
| チャット | 用意されたチャットルームのほか、独自のチャットルームを開設できる。 |
| コミュニティー | グループ用の掲示板のほか、画像ファイルをオンライン上で共有できる。 |
| メディアプレイヤー | MSNエクスプローラ上でウィンドウズメディアプレイヤーが使える。 |
| カレンダー | Hotmailのカレンダー機能が使える。 |



こう変わる!! アドレス帳の共有から 電子メールサービスの統合へ

Hotmailの受信トレイが表示されるが、ウェブメールとしてのHotmailとは別のユーザーインターフェイスを持っている。

アウトLOOKエクスプレスのアドレス帳のデータをサーバー側にインポートできる。また、ユーザーが過去にやりとりしたメールもサーバー側が保存できるため、まさに、いつでもどこでも、自分のプライベート情報にアクセスできる。情報を同期させるといったことは、いっさい考えなくてもかまわない。この機能は将来的には、Hotmail以外の任意の電子メールアカウントでも使えるようになるだろう。



上の画面はメール作成画面。左の画面のようにインストール後の最初の起動時に、アウトLOOKエクスプレスのアドレス帳をインポートするかの確認が出てくる。

発表した。これは、ウィンドウズXPの機能をよりわかりやすくメニュー形式で利用できるようにするもので、ビデオや音楽、デジタルカメラ写真など、PC内のリソースをPCのスキルが低い誰にでも簡単に扱えるようにすることを目指している。

スタイルはずいぶん違うが、MSNエクスプローラの考え方もこれに近い。いろいろなサービスを個別に利用するよりも、複数のソフトウェアを組み合わせることで、1つのウィンドウの中で、もっとわかりやすいサービスの連携を目指すアプローチが、そこかしこに見えるからだ。

サービスという言葉が出てきたことからわかるように、MSNが提供している現時点の各種サービスは、将来的にすべてがMicrosoft .NET Servicesによって提供されるものに変貌していきだろう。現時点でもウィンドウズメッセンジャーのサービスなどは、Passportによる認証が必要で、まさにマイクロソフトが考えている.NET

Servicesの一環というのにふさわしい設計がなされている。

ウェブサイトがポータルとなり、そこから各種のサービスのリンクへと飛んでいくスタイルは、将来もそのまま残り続けるに違いないが、ポータルをローカルのPC側に持ち、.NETのサービスをより有効に使っていくスタイルもありだということをマイクロソフトはいいたいのだ。

2002年末には始まる
.NET Servicesのプロトタイプ

すなわち、MSNエクスプローラは来るべき.NET Services時代に、ユーザーがどのようなスタイルで各種のサービスを利用できるのかを示す1つのひな形である。また、各サービスベンダーが、どのような方法で.NETのサービスを自社サービスと融合させて提供していけるのかをプロトタイプとして見せる役割を持っているとも考え

られる。

.NET Servicesでは、OS上で動く各種のアプリケーションがOSのAPIを呼び出し、これらを組み合わせる機能を実現するのと同様の方法で、ウェブサービスから各種のサービスをバックグラウンドで呼び出してユーザーに利用させられる。

MSNエクスプローラに組み込まれたサービスが、どのような方法で呼び出されるかの実装は知る由もないが、最終的にユーザーからどのようなGUIに見えるのかを指し示すひとつの形が提示されているのは間違いない。

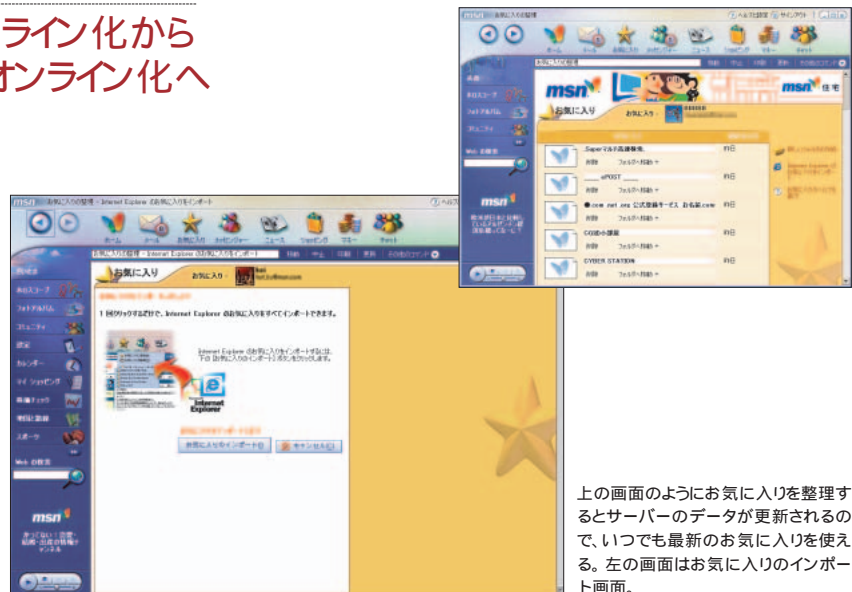
たとえばお気に入りやメールの情報などは、ローカルのコンピュータに保存されるのではなく、基本的にMSN側のストレージに保存される形になる。したがって、各ユーザーはどのような場所でどのようなパソコンからMSNエクスプローラを使おうとも、いつもの自分の環境が目の前に展開される。



こう変わる!! お気に入りのオンライン化から ユーザー環境のオンライン化へ

インターネットエクスプローラのお気に入りをインポートでき、サーバー側で保存できる。また、MSNエクスプローラで閲覧したウェブサイトを追加したり、保存してあるお気に入りを整理したりもできる。

お気に入りボタンをクリックすると、登録されたお気に入りが一覧表示される。選んだウェブサイトは別ウィンドウを開くことなく、MSNエクスプローラ上で表示され、通常のブラウザーと変わらない操作ができる。ゆくゆくはユーザー環境も預けられるようになるだろう。



上の画面のようにお気に入りを整理するとサーバーのデータが更新されるので、いつでも最新のお気に入りを使える。左の画面はお気に入りのインポート画面。

まさにマイクロソフトが提唱する Anytime anywhere, any devicesの理念がここにある。同社は今後、自社ビジネスの中核をソフトウェアからサービスにシフトさせていくと宣言しているが、そのためにはユーザーがサービスを利用する環境をできる限り、広いレンジで用意しておく必要がある。

個人が自分用のパソコンを1台ずつ持つだけではなく、道具として身にまとう各種のデバイス、そしてリビングルームに置かれた家族が共有するテレビやゲーム機、セットトップボックスといったデバイスなど、あらゆる環境から等しく各種のサービスを利用できるようにしておかなければならない。ちょうど銀行にお金を預けておいて、必要なときにATMで下ろすのと同じように、必要なときに必要な場所で、必要な機械を使えば、いつもの自分の情報を取り出せる方が便利に決まっている。.NET Servicesが目指すのは、まさにこうした方

向性だ。そして、MSNエクプローラは、たまたまPCという限られたハードウェアで動く、さらに限られたウィンドウズ環境での情報ATMにすぎない。お楽しみはまだまだこれからだということだ。MSNエクプローラはもしかしたらその壮大な将来を予感させるパイロットシステムなのかもしれない。

 explorer.msn.co.jp

.NET Services で予定されているサービス

| | |
|--------------------------|--------------------------------|
| .NET Profile | 名前やニックネーム、特別な日付、写真などの個人情報 |
| .NET Contacts | 友人リストやアドレス帳の保存 |
| .NET Locations | 電子のおよび地理的な現在位置と待ち合わせ場所情報 |
| .NET Alerts | 重要なイベントに関する通知の送信 |
| .NET Presence | .NET Alertsを受け取る場所やデバイスの情報 |
| .NET Inbox | デバイスや場所を選ばずに電子メールやボイスメールなどを送受信 |
| .NET Calendar | スケジュールの管理と共有 |
| .NET Documents | 仕事上の文書の保存 |
| .NET ApplicationSettings | アプリケーションなどユーザー環境の設定 |
| .NET FavoriteWebSites | お気に入りのURLの保存 |
| .NET Wallet | レシートや支払方法、クーポンなど商品購入情報の保存 |
| .NET Services | 利用している.NETサービスの利用状況の管理 |
| .NET Lists | ユーザーの設定したリストの保存 |
| .NET Categories | 保存したデータのグループ化 |

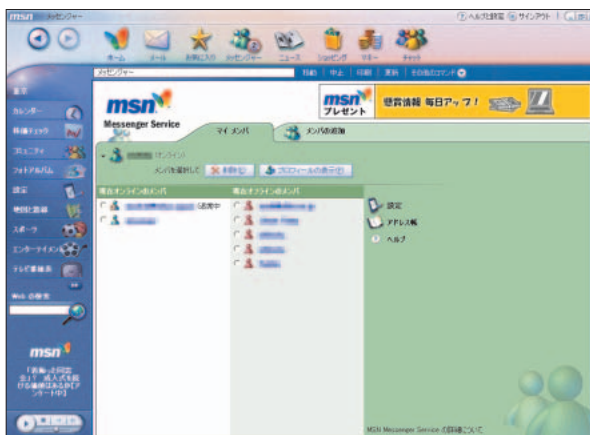


こう変わる!!

メッセンジャーの組み込みから P2P サービスの実現へ

ウィンドウズメッセンジャーとほぼ同等の機能を提供するが、そのユーザーインターフェイスは、機能ごとに少しずつ異なる。

現在メッセージングサービスは、ファイル転送以外はメッセンジャーサーバーを経由している。将来的には予定通知サービスといったAlert機能などが統合され、いくつものセッションでピア・ツー・ピア(P2P)サービスが実現するだろう。そのときにどのようなユーザーインターフェイスを持たせれば、使う側にとってわかりやすく便利なものになるかをもっと研究してほしい。



上の画面はMSNメッセンジャーの操作画面。左の画面のようにウィンドウズXP環境下であれば、別ウィンドウを開かずにMSNエクプローラ上で、メンバーの状況を確認できる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp